

スッポン泳法 伊藤 慎一郎

東京大学に入学して同じクラスになったのが、現在リンナイの社長を務める内藤弘康君だ。運動が苦手な自分とは反対に器械体操が得意で、鉄棒、つり輪などで難しい技に挑んでいた。同級ながら包容力のある不思議な落ち着きがあった。

進路に悩みフラフラしていた私に、彼はいつも道標を示してくれた。数学や物理を社会に生かせる分野として、機械工学の素晴らしさを教えてくれた。生き物対象の流体力学に腰を据えた2002年、私はスッポンの泳ぎ方が当時最速だった水泳選手のイアン・ソープに近いことを明らかにした。「伊藤が主体的に関わることで競泳界を活気づければいいじゃないか」と彼から励まされ、「スッポン泳法」を広げるべく、48歳からスポーツ工学の道に進んだ。

当時は「理論と実践は別」との見方も多かったが、時代は理論に追いついてこの泳法は現在の主流になった。華麗な体操に憧れていたからこそ、理論の構築でスポーツに貢献する考えが芽生え、新たなチャレンジへの決意ができた。05年から社長の内藤君は、組織のトップとしては先輩だ。「学長は学生や教職員、OBに絶えず見られていることを意識すべきだ」とのアドバイスを常に心がけている。(いとう・しんいちろうⅡ工学院大学学長)

交遊抄

2022年6月17日
日本経済新聞朝刊